

第12報 効率の高いロングタイムの運営

I. はじめに

生徒の自治活動は学校生活におけるさまざまな集団の中で育てられていく。例えばグループという一つの小さな集団から、H・R、さらに学年、生徒会という全校的な大集団に至るまで、その規模の量的質的な差異はあっても、それらの集団の中で彼等が学びとる協同や自主の精神に本質的な差異はない。生徒の共通の問題や要求がそれらの各集団を通して全校的に集約され、組織化されて解決への努力がなされるのが望ましいのは言うまでもないが、その場合の生徒の姿勢は積極的・意欲的であるとともに、生徒としての良識に支えられた健全なものであってほしい。こうした自治活動を育てるためには指導のあり方にも十分検討がはられねばならない。一昨年度からわれわれのグループは「発展的な目標をもった生徒の管理・指導」を継続的な研究テーマとして、種々の試みを行ってきた。

ここでは、その一環として「H・Rのロングタイム」のあり方を考えてみたい。この問題はこれまでわれわれの研究グループの教官を中心として検討され、いくつかの試みもなされ、その成果はあがりつつある。

今年度はその2年間の研究をさらに発展させ、何らかの結論に導くべきであるがそれまでには至っておらず、ただこれまでの研究の一応のまとめとして発表したい。

II. 研究の歩み

L・Tのあり方を検討していく場合、われわれは常にH・Rは生徒指導の基盤であり、生徒会活動の拠点であるという発想のもとに、H・R活動、すなわちL・Tの充実をねらって検討を重ねてきた。以下、その具体的な実践を述べる。

(1) L・Tの計画

各学期のはじめにL・Tの計画を作成して、担任と指導部へ提出するが、テーマを決めるのはほとんど生徒の自主性に任せられる。したがって当然そこには安易に流れやすいレクリエーション支持派と、人生探究的な討論支持派の対立がおこる。その対立は、さらに成績による優劣の階層をはっきりさせ、ある者は利己的な自己主張をし、ある者は無関心、逃避を決めてむなど、H・Rはさまざまな様相

をえがく。後向きの者と前向きの者をいかにして歩み寄らせるか、指導の面でむずかしいところである。

各学年のH・Rごとに提出される計画一覧表を見ると学年の傾向、H・Rの特色が大体わかる。望ましくない方向に偏っている計画には指導を加えねばならない。音楽鑑賞・スポーツ・ゲームなどの娯楽的な内容が多い場合には、担任や室長会議を通して意向を伝え再検討させる。また、これは結果において反省の機会を与えたことになるのだが、一学期の終わりにアンケートによる調査をする。その内容は、一学期のL・Tをふり返って印象に残ったテーマをあげさせて、H・Rのまとまりに役立ったかどうかをきいたり、L・Tの受け止め方に対する質問をし、また二学期のL・Tに対する希望や意欲に関連した質問をするのである。(調査(1)～(5)参照)

さらに二学期のL・T計画表を作成する時は、前年度のL・T実施一覧表とともにそのアンケートの結果を参考にさせる。これはかなりはっきりした成果となってあらわれた。例えば他のH・Rに比較して自分達のH・RのL・Tのあり方を反省し、二学期は討議を多くするなど、いろいろな面でよい資料となったのである。

(2) L・Tの記録

毎週1時間のL・T実施後、H・Rの書記、室長、その他運営の責任者などH・Rによって違いますが、それらの1名が規定の用紙に書き、担任を通して指導部へ提出する。記録の内容は事前の準備、運営等についての反省であるが、文章化することによって自分達の活動を客観的に批判し、その結果得た反省や感想が整理され、確認されていく。また一方、担任や指導部にとっては生徒のものの考え方、感じ方を知ることができて、指導上の貴重な手がかりとなる。最近の記録の中には、かなり意欲的なL・Tの実態を示すものも見られ、少しずつではあるが向上のあとが見られる。

(3) 学年活動とL・T

〔掲示活動〕

1学年3H・Rが三つの掲示板にそれぞれ共通のテーマのもとに、各H・R独自の角度で調査・研究・創作などを行ない、図書館の廊下に展示する。H・R全員の協力体制がなければ望ましい成果は得

B. 発展的目標をもった生徒の管理・指導

られない。この準備のために学年としてのまとまり、H・Rとしてのまとまりが促進され、L・Tを盛り上げる一つの原動力となっている。

〔大和古跡研究旅行〕

毎年10月初旬、高2について2泊3日の日程で実施している。国語・社会・美術を中心にして研究テーマを設け、各H・Rはそのテーマごとに7つのグループに分かれて、事前の準備、現地での研究発表を行なう。飛鳥、西の京、吉野などの古跡、自然美に触れることにより、また旅という経験を通して、さらにはグループの共同研究という活動を通して、自己や他人の内面に触れて人間関係を深めたり、長い歴史の中において現在を考える思索を深めたり、人間形成の上でもよい機会になっていると思われる。この研究旅行の中で育てられた人間関係や物の見方、考え方が以後のH・R活動の充実となってあらわれている。

また、これと同様のことは夏休み中に実施している高1の木曾駒登山についても言えるのではないかと思う。

(4) 生徒会活動とL・T

〔金大付高との交歓試合〕

本年で10回目を迎えた対金大付高戦は、生徒の最も大きな関心であり、この計画、準備、運営は例年生徒会の大きな仕事となり、その成果のいかんは生徒会執行部の手腕と結びついて評価されるほどである。過去の対戦成績は4:5で負け越しになっているのを、本年こそは5:5の対の成績にしようという、かなり積極的なムードの中で事は進んでいき、遂にその目的を果たしたが、その過程において各H・RのL・Tではこの行事の意義、あり方をめぐって討議がおこなわれ特に生徒会の中心になっている高2においては活発で、H・Rの意欲的な姿勢が生徒会執行部に働きかけるほどであった。

(5) その他

以上述べたうち(3)以下はL・TというH・R活動が単にH・R内だけにとどまらず、超クラスの活動として学年へのひろがり、さらに超学年的活動として全校へひろがることによって、生徒の共通の問題や要求が、全体に集約され、生徒の手によって解決してゆくという姿勢に対する指導をのべ、またその成果が少しずつではあるが、いろいろな形の中にあらわれつつあることを述べてきた。そしてこのようなL・Tの拡大活動として、クラス対抗の校内球技大会や遠足も考えられるのである。前者はソフトボール、バレーボールなどの競技で、定期テスト

終了後実施しており、後者の遠足については、春の遠足が各学年別に目的地を選び学年的なまとまりをねらっているのに対し、秋の遠足は、全校生徒が同じ目的地へ行く全校的なまとまりを考えている。

III. おわりに

L・Tの指導をする場合、生徒のL・Tに対する考え方や受け止め方を切り離すことはできない。週1時間のL・Tに生徒はどんな意義を考え、何を期待しているか。7月はじめ、中間測定の意味で調査した結果、生徒のL・Tに対する考え方は大体において望ましい線をいっている。しかしこれらの中には、表面的、観念的な受け止め方に過ぎない者もあろう。また全体からみたらわずかではあるが、後向きの者もある。(調査(1)参照)

ともすれば教科中心になりがちな現代の高校生活の中で、L・Tの果たす役割は非常に大きいはずである。しかし、現実のL・Tは必ずしも、その本来の目標に向かって運営されていると言い切ることはできない。結局は生徒の意識を高めていくことが根本問題と思われる。

しかしここで一つの問題にぶつからざるを得ないのである。それは意識を高めること、つまり正しいロングタイム観を持つことが単なる観念的な理解にとどまり行動として生かされないということである。

生徒のひとりひとりを個人的にみると、L・Tに対してかなりまじめに考え、自分達の高校生活にとってかけがえのないほど貴重な時間にすべきだと期待しながら、それが個人の意識にとどまり、集団の意識から集団の行動へと発展していかない。こうした意識と行動のずれ、さらに個人と集団の分離をいかにして解決するかが大きな問題となる。

文化祭、体育大会の準備でH・Rの協力が切実な要求となっていたころ、一部ではかなり充実したL・Tが行なわれていた。提出された記録を見ると討議が熱心に交わされ非常に感動的な場面もあったようだ。そしてこれが単なる衝動的な一時の興奮でなかったことは、以後のL・Tの記録によってもうかがうことができるのであるが、この場合H・Rに何でも言えるという雰囲気があったからではなからうか。

(L・Tの記録例参照)

「体育大会はあくまでも競技中心でいくべきで、デコレーションに主力を注ぐべきでない」という意見に対し競技不得手な側の声として「デコレーション作りに情熱をかける人間のいることも認めてほしい」と訴えたその生徒が平生は目立たない生徒だっただけに多くの共感をよんだ。そしてこれが契機となってH・Rの雰囲気はいっそう盛り上がり、相手の立場を理解し

ようという善意のもとに協力が促進されていった。これに近い例は他のクラスにも見られるがまだ一部のわずかなものに過ぎない。ここで、こうした充実したL・Tを支えたものは何であるかを考えた時、それは当然のことではあるが、生徒相互、さらに教師と生徒間

の信頼感という人間関係である。指導の技術もこうした人間関係があってはじめて生きてくるのではない。結局教育の根本精神に帰っていくことになると思う。(佐藤・戸町)

ロングタイムについての調査

(42.7.1 実施)

(1) 高校生活においてロングタイムはどのような意義があると思いますか。簡条書きで答えなさい。

項 目	H 1				H 2				H 3				合計
	A	B	C	計	A	B	C	計	A	B	C	計	
クラスの団結を促進する	7	9	12	28	17	14	11	42	17	15	20	52	122
意見の交換によって級友の考えがわかり、自分と比較できる	18	12	8	38	6	26	17	49	11	16	7	34	121
人間関係(友人・師弟)を深める	13	7	18	38	3	7	6	16	2	10	8	20	74
クラスの協調性・連帯感を強化する	3	3	8	14	4	3	7	14	6	5	1	12	40
ものの見方や考え方を育てる	4	4	2	10	7	3	2	12	6	3	7	16	38
生徒間の親密さを促進するレクリエーションである	3	5	3	11	3	4	2	9	2	5	4	11	31
人間形成に役立つ	6	1	1	8	2	3		5	7	5	2	14	27
同じ世代の共通の問題を話し合い、発展させ、解決へ導く	3	5	3	11	1	4	3	8		1	4	5	24
授業からの解放であり、一種の息抜きである	2	2	2	6	5	1	1	7	3	1	2	6	19
討論のしかたが身につく、発言能力が養われる		1	2	3	2	1		3	4	1	1	6	12
自己を主張したり、表現したりする場がえられる	1			1	3	2		5	2		1	3	9
自主活動の精神を養う	2		1	3	1	1		2	3		1	4	9
種々の問題について知識を深めたり、社会に対する関心を深める					3			3					3

(2) ロングタイムのあり方としてどのようなものを望みますか。簡条書きで答えなさい。

クラス全員が積極的に参加する	12	13	16	41	3	8	14	25	26	14	19	59	125
一部の者の関心や、好みに偏らず全員が活発に発言できるもの	11	11	6	28	7	16	5	28	6	3	7	16	82
クラスの雰囲気やリラックスするためスポーツなどを多くする		3	5	8	12	9	4	25	7	5	6	18	51
クラスが一つにまとまって、ある問題を解決していくようなもの	2	2	4	8	8	5	4	17	2	8	9	19	44
高校生活における身近な問題を自由に話し合う	1	1	1	3	4	6	8	18	8	11	4	23	44
全員の責任でやる(議長の輪番・企画運営のグループ分担)	6	4	8	18	4	9	8	21	1	1		2	41
もっと討論を多くし、考える時間にする	4	2	2	8	9	2	9	20			1	1	29
すぐれたリーダーの運営によって充実したものにす	3	6	2	11	5	3	1	9	1	2		3	23
{その他、縦のつながりや横のつながりを考えた場合 同のL・Tや全校的な活動のできるL・Tを望む 声もいくつかあった}													

(3) 充実したロングタイムにするにはどのようにしたらよいと思いますか。簡条書きで答えなさい。

クラスの協力・統一により、全員が積極的に参加する	28	18	39	85	15	14	16	45	18	19	12	49	179
全員の関心・興味を考えて、テーマをくふうする	9	7	4	20	10	19	9	38	14	6	13	33	91
周倒な事前の準備に心をくばる	3	14	2	19	3	6	6	15	9	7	11	27	61
自由に発言できる雰囲気をつくる		1		1	4	9	1	14	5	8	10	23	38
リーダーが統率力を身につける	4	4	6	14	4	4	2	10	2	2	4	8	32
各個人が自覚し、誠意をもって参加する	2	1		3	2	2	3	7	2	4	1	7	17
グループ単位の話し合いを多くする	1	2		3	3	4	3	10		1	2	3	16
偏った意見で混乱させることなく全員の意見が反映できる	2	2	4	8		3		3					11

B. 発展的目標をもった生徒の管理・指導

生徒の自主的活動を尊重する	2	1	3	2	1	3	2	1	3	9
討論を中心にし、娯楽的なものは少なくする	1	1	1	3	4	1	1	1	1	6

(4) 次の問について「はい」「いいえ」で答えなさい。

項 目	答	H 1			H 2			H 3			合 計			
		A	B	C	計	A	B	C	計	A		B	C	計
L・Tを充実したものにしないで ならないと思いますか。	○	44	47	47	138	44	44	43	131	44	47	46	137	406
	×	2	1	2	5	4	5	4	13	3		1	4	22
	△			1	1									1
L・Tの討論の場などに積極的に いろいろと努力していますか	○	22	21	33	76	20	24	21	65	21	21	18	60	201
	×	23	25	15	63	28	23	26	77	25	23	29	77	217
	△	1	3	1	5	2			2	1	3		4	11
L・Tに関心をもっていますか。	○	32	40	45	117	30	34	31	95	34	34	39	107	239
	×	14	8	3	25	18	15	16	49	12	11	7	30	104
	△		1	1	2					1	2	1	4	6
クラス全体から見てL・Tに対する 熱意が感じられますか	○	4	9	9	22	9	11	10	30	15	19	21	55	107
	×	42	37	40	119	39	38	36	113	30	26	24	80	312
	△		3		3		1		1	2	2	2	6	10
L・Tの活動がクラスのまとまりに 役立っていると思いますか。	○	16	23	32	71	17	23	22	62	30	31	38	99	232
	×	27	23	15	65	31	25	23	79	16	14	6	36	180
	△	3	3	2	8	1	2		3	1	2	3	6	17
L・Tの活動を通して級友の考え方 がわかり交りが深くなりましたか。	○	19	19	27	65	13	15	18	46	22	27	23	72	183
	×	25	29	20	74	33	32	26	91	22	18	19	59	224
	△	2	1	2	5	2	2	3	7	3	2	5	10	22
前の学年にくらべL・Tが充実して きたと思いますか。	○	15	13	18	46	14	33	20	67	21	28	29	78	191
	×	25	32	25	82	33	15	26	74	21	17	14	52	208
	△	6	4	6	16	1	1	1	3	5	2	4	11	30

(注 ○…はい ×…いいえ △…無答)

ロングタイムの記録 (例)

	10月5日 (木) H2B	記入者	○	○	○	○
題	体育大会のデコレーションについて					
内容	最初は意見がまとまらなかったが、途中から団結論が出て熱心に討論が展開され、デコレーションを作る意義が認められた。					
感想	今回のL・Tが僕達の高校生活を通して、最も貴重な一時間であったと思う。学級内において重要な和と団結というものをはっきりと見せつけられたような気がした。日ごろあまり意見を出さない人も自分の考えをしっかりと述べ、皆が真剣にその意見を聞き学級の中が興奮のるつぼと化したようになり、泣き出す人も出てくるほどであった。とてもこの気持は書き表わせないが、今の雰囲気がいままで続くように願っている。					

(5) 2学期のL・Tで希望するテーマ

	テ ー マ	希望数		テ ー マ	希望数	
高 三	進路について	15	二	先生と生徒	6	
	人生について・人間について	12		時事問題	6	
	スポーツ	12		学園祭について	6	
	時事問題	11		クラブ活動について	5	
	レクリエーション	10		将来の希望	4	
	勉強について	8		金沢戦をふりかえって	4	
	生徒会のあり方	7		学校行事について	3	
	友情	7		高	レクリエーション	22
	先生と生徒	6			スポーツ	19
	学生の社会に果たす役割	6			高校生活のあり方	14
高校生活から得たもの	5	勉強の方法について	10			
受験と恋愛	4	人生について	7			
高	男女交際について・友情について	20	友情		6	
	レクリエーション	20	クラブと勉強の両立		5	
	進路について	15	先生と生徒		5	
	人生問題	9	友情		5	
	高校生のあり方	7	読書会		4	
	スポーツ	7	学校行事	3		
	学問について	7	散歩	3		
	読書会	6	映画を利用しての話し合い	3		
			規則の必要性	3		

第13報 指導者の育成をねらった室長会議

要旨

これは、活発な生徒の集団活動を求めて「室長会議」を組織的に運営しようとする試みである。生徒会とは別の中集団活動を通し、生徒個人の積極性、ひいては大集団の積極性を育てていこうと考え、その為の手はじめとして、指導者としての訓練をつんだ室長を育成することを目標に実践した報告をここに述べようと思う。

その指導は、生徒全体に対する場合も同様であるが、生徒の自主性を尊重するものであるべきであり、生徒と教師の間に十分な理解と信頼が必要であろう。換言すれば、「共感的理解」、生徒が率直に意見を出し、批判をした後、生徒が受容態度をつくること、簡単に言えば話しあえる場を持つこと、であり、これが、この会議を持つ第1の理由である。

I. はじめに

民主社会の一員として育てていく生徒の指導は、基本的に民主的でなければならない。そして、民主社会の基礎となる社会的態度、能力を養成する為には生徒の自主性が重んぜられるべきであろう。生徒の自主性・自発性を尊重して指導することが、生徒の活動を活発にし活動の火を燃やす指導者の精神を養成し、集団活動を起こす基となるのではなかろうか。

H・Rを中心とする生徒の諸活動の指導に於ては、その直接の責任者であり、執行者の代表である室長に、まず、適切な指導がなされることが必要と思われ

II. 室長会議

上述したような生徒指導に於ける望ましい形を指向し、さらに問題点解決の方法として、H・R室長会議を設けた。この会議の意図は、H・R活動に統一性を持たせ、学年の縦横の相互理解を深め、さらに、指導部の指導意図や、教官会議の意向を、生徒会関係以外のものについて、各H・Rに徹底させ、意志の疎通を深めようとするものである。又逆に、各H・Rの意見、反応等を生のまま教師が受け、先に述べた共感的理解を増して、生徒諸活動を盛り上げる融通性のある生徒の自主的活動である、このような意図が、この会議を持つ第2の理由である。